

2025年春、
港区にあたらしい
プリスクールが
オープンします。



Pikkas

はじめまして、

ピッカス インターナショナル プリスクールです。

リーフレットを手にとってください、嬉しく思います。

待機児童問題は徐々に解消に向かっているといいますが、今の日本では、保育園にはいるまでの道のりがひとつの目的となって「どんな子育てをしたいか」という本来あるべき選ぶ自由がおざなりにされていたり、入園したあとも、家族ぐるみでの負担や悩みを抱えながら通い続ける、という現実があるように感じています。わたし自身、子どもを育てながら働く母として、毎日さまざまな壁にぶつかっています。Pikkasが目指したいのは、一歩前

へ進んだインターナショナル・プリスクール。それは子ども自身だけでなく、家族と教職員がともに「心地よく」過ごし「学び」を得ること。そして英語の楽しさを知り、好きになってもらうという、シンプルなコンセプトに基づいています。世界でさまざまな幼児教育に携わった経験をもとに、子どもが日々探究心を持ち、生き生きと学べるプログラムを用意しています。今後の展開にどうぞご期待ください。

Pikkas international preschool 代表 中川早智子

01

子ども、親、教職員の「三方よし」 Pikkasは探究心をはぐくみ 成長できるプリスクールです。

ピッカスがもっとも大切にしていることは、子どもたちが園で遊びげんな時間を過ごせるよう環境を整えること。ご家庭での負担を少なくすることにつとめ、家族それぞれのライフスタイルを尊重します。

子どもはもちろんのこと、保護者、教職員にも寄り添い、安心して預けられる、安心して働くことができる。「三方よし」の保育こそが、子どもの成長を促すと考えています。

保護者のみなさまへ

ご家庭での活動やお仕事を尊重し、園から特定の役割を保護者のみなさまに強いることはありません。子ども達に不足しがちな栄養を考慮した給食、丈夫でやさしいオーガニックコットンを使用したユニフォームは、家庭での毎日の食事や支度の準備の軽減になるように。また、ワークショップやイベントの開催により、学び、そして地域のコミュニティーを楽しむ場としても機能していくことを目指しています。

教職員のみなさまへ

家族と変わらぬほど多くの時間を子どもと一緒に過ごすからこそ、整った環境が必要です。テクノロジーを活用し、気持ちに余裕を持ち、日々新たな学びを得ながら保育の仕事にあたって頂きたいと考えています。英語をつかい、海外の教育哲学を取り入れた保育に興味のある方はぜひお問合せください。



PROFILE

大阪府の私立幼稚園教諭の経験を経て渡豪、オーストラリアでのチャイルドケアワーカー、日本語教師の経験を通じ、子どものための教育について深く考えるようになる。帰国後は輸出専門商社にて海外営業職に就き、日本のプロダクトを世界へ広める業務に従事したのち、ドイツへ渡りアドラー式インターナショナルスクールや、NGOドイツ国際平和村にて乳幼児の保育に関わり、世界各国の多様な子どもたちとの関

02

すくすくと、大木のように。 質のよい教育は、 質のよい土壌から生まれる。

健やかに植物を育てるためには、土づくりが大切だといいます。よい土とは、適度なすきまがあり、水はけや水もちがよく、通気性にすぐれているもの。幼児の心を育む際にも、同じことが言えると思います。

まずは基本的な生活習慣を身につけること。教職員や友達との信頼関係を築き、スクールが安心安全な場所であると、子ども自身に体感してもらうこと。そして探究に適した外遊びを大切にすること。そうしてはじめて、身体的な発達や言語を身につける土壌が整います。Pikkasではこのフィロソフィーを大切に日常生活を送ってもらいたいと思っています。

Great oaks from little acorns grow.
樫の大木も小さなどんぐりから育つ

イギリスにはこんなことわざがあります。小さな実から大木に成長するどんぐりは、希望や可能性の象徴。Pikkasのロゴも、子どもたちがすくすくと健やかに育つよう願いを込めて、どんぐりのかたちとしました。なかに詰まった七色のモチーフは、多様性を表現しています。



03

学んで楽しい! が最優先。 思考力を高めることを 重視した英語環境。

ことばや文化といった知識、さまざまな運動能力。これらは、これからの社会を生きるためにとても大切な基本的なスキルです。Pikkasでは、様々な海外の教育哲学を取り入れたオリジナルプログラムのもとに、子どもたちの創造力、計画力や取り組む力など、自らの「考える力」を伸ばす環境のなかでこれらを養っていきます。

英語力を習得するためには一般的に3,000時間以上の学習が必要だと言われています。Pikkasでは保育時間中はオールイングリッシュ。言語習得能力の最も高い幼児期だからこそ、自然な英語環境のなかですごし、子どもたちの興味の幅が広がったタイミングで、一人ひとりの興味・関心に合わせ、遊びのなかでライティングやリーディングへといった活動へ自然に誘導していきます。

りのなかで、生き生きとした瞳を目の当たりにする。

日本へ帰国後は、外資系企業を中心とした人事採用業務に携わるなかで、思考力を持ちグローバル化にも対応できる人材育成に向けての幼児教育の重要性を強く感じるように。日本の子どもたちにも多様な教育の機会を与えるため、Pikkas international preschoolの開園を決意。自身も3歳の娘の母である。

